

茨城県知事 殿

学校名 茨城町立葵小学校  
代表者氏名 校長 米川 順子 印

## 愛鳥モデル校 活動実績報告書

令和元年度の愛鳥活動については、下記のとおり実施したので、愛鳥モデル校指定要項第9条第2項の規定により、その実績を報告します。

## 記

## 1 愛鳥活動

## (1) 涸沼の野鳥コーナーの設置

理科室前に涸沼の野鳥コーナーを設け、野鳥の写真を掲示した。また、野鳥の本も児童がいつでも手に取れるようにした。それだけではなく、涸沼近くに生息している野鳥の掲示を行い、地元涸沼の野鳥にも関心が向けられるようにした。また、現在（2月）飛来しているオオワシの写真も寄贈していただき、併せて掲示した。オオワシがいることは知っていたが、実際にその様子を写真で見て、「すごい」「かっこいい」等の声が聞こえ、興味を引くことができた。



## (2) 野鳥観察会

葵の森など学校周辺を歩き、野鳥の観察を行った。双眼鏡を用いて、野鳥のいそうな場所を探しながら、観察をした。児童は、野鳥の声に耳をすませて、声の聞こえた方を探していた。野鳥を発見すると、喜びの声が聞こえた。誰もが熱心に観察をすることができた。

総合的な学習で、涸沼の環境学習の一環として、涸沼での水質検査を行った。そのときも、涸沼に生息する野鳥を探す活動を取り入れ、予想した以上に野鳥の姿が見られ、児童から驚きの声があがった。また、地域教材や本、インターネットなどで調べた野鳥を発見することもできたようである。調べた野鳥が本当に生息していることを発見できたことは、児童にとってよい経験となった。調べた内容については、学年学級で発表し、知識を共有した。3学期には涸沼にオオワシが飛来しているとの情報を聞き、野鳥を観察することにさらに関心が高まった。



## 2 成果と課題

野鳥は身近に多くいるのに、気付かず目を向けにくい存在であった。しかし、環境を整え自然に目を向けると、家庭でも校庭からでもたくさん見ることができた。野鳥の観察は、環境保全につながり、地域の環境を考える活動に適していた。今後、児童自らが、どのように関わっていけるかが課題である。児童の発想を生かし、地域と協力しながら今後の活動を展開していきたいと考える。